

平成 19 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 大町 公

最終学歴	京都大学大学院文学研究科博士課程哲学（倫理学）専攻単位取得満期退学
取得学位	京都大学文学修士
所属学会	日本倫理学会、関西倫理学会、日本医学哲学・倫理学会
現在の専門分野	倫理学、死生学
研究課題	現代日本人にどのような死生観が可能か、老いと死と悲しみの哲学

【研究上の特記事項】

今後の「日本人の死生観」を考えると、認知症を患う高齢者をどう捉えるかということがとても大切なことと思う。そういう視点で、引き続き、「老いの哲学」を追究していきたい

【社会的活動】

都祁生涯学習シリーズ・奈良大学教養講座 平成19年6月「文学の中の老い」

【学内活動】（学内職歴を含む）

全学企画委員会(教養部企画委員長)、入学試験委員会、学部会議長職務代行、総合研究所運営委員会、関西教授会連合
美術部顧問

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 命の終わりの死と向き合う7つの視点	単著	2007年7月	法律文化社	ここ5年間に書いた論文を中心に、新たに書き下ろしたものをも含めて、一書とした。
(学術論文) 戦後日本の老いと介護ー「介護文学」作品を手がかりに	単	2008年3月	「倫理学年報」第57集	49頁～62頁。下記学会での発表を文章化し、当日の質問にも答えたもの。
(学会発表) 戦後日本の老いと介護ー「介護文学」作品を手がかりに	単	2007年10月	新潟大学	日本倫理学会第58回大会・共通課題「老い」での発表。発表者6人の中の一人。
シリーズ「人と本」	単	2007年秋	季刊らんじょうNo.27	抽著『命の終わりの死と向き合う7つの視点』に関するもの